

「グローバル・リーダー育成、スウェーデン研修プログラム」を実施して

教育学部では、平成 26 年度にスウェーデンのストックホルム大学教育学部と部局間協定を締結したことを受け、学生間の交流を促進するために「グローバル・リーダー育成、スウェーデン研修プログラム」を平成 27 年 3 月に実施しました。今回のプログラムには、教育学部から 12 名の学生が参加し、ストックホルム大学教育学部の学生たちと交流を深めることができました。なお、今回のプログラムの実施にあたっては、教育学研究科附属学校教育高度化センターとも連携し、同センターによる研究プロジェクト「グローバル時代の学校教育」から研究助成を受けた大学院生たちも参加する国際シンポジウムを開催したことに加え、現地の学校やスウェーデン教育庁の訪問も行いました。とくに、学部生が国際シンポジウムで発表を行うにあたり、大学院生から重要な助言を得られたことを記しておきます。

プログラムの詳細については本報告書をご参照いただきますが、国際シンポジウムならびに学校・教育庁への訪問を通して、学生たちは日本とスウェーデン、さらにはアジアと欧州という、異なる社会における教育のあり方の相違について、理解を深めることができたと考えます。その際、スウェーデンや欧州というそれまで殆どの学生たちにとって未知の世界であった社会において、さまざまな教育課題に直面しながらそれらに対応するために興味深い教育の政策や実践を積み重ねている様子を垣間見ることで、それぞれの学生のなかで「教育」を相対化することができたのではないかと思います。そのように「教育」を相対化することによって、改めて日本、さらにはアジアにおける教育のあり方について、深く考える機会となったと確信しています。

このように、今回のプログラムは、グローバル化時代の教育のあり方についてそれぞれの学生たちが深く考える重要な契機となったことに加えて、そのように考える行為が「実感」を伴ったものになったという意味でも、意義深いものであったと考えます。その「実感」とは、現地の学校や教育庁の訪問を通して感じることができたと思いますが、それ以上にストックホルム大学の学生たちと 3 日間にわたり濃密な時間を共に過ごしたことによる成果だと考えています。「教育」という事象にこだわりをもって学んでいる学生たちが、国境を越えて出会うことによって、素晴らしい化学反応が起きたことを、引率した教職員たちも目の当たりにしました。短い期間の交流ではあっても、それぞれが刺激し合って、さらに深く教育について考えようとする姿勢を見ることができたことは、こうした国際交流プログラムの意義を改めて確認する良い機会でもありました。

東京大学教育学部とストックホルム大学教育学部が、これからさらに教育・研究の両面での交流を深めていくうえで、今回のプログラムは確かな第一歩となりました。こうした一歩を踏み出せたことは、ひとえにストックホルム大学ならびに東京大学の関係各位のご尽力によるものであり、ここに記して謝意を表したいと思えます。この歩みをさらに確かなものにしていくために、今後、両教育学部の交流がますます発展していくことを期待しています。

2015 年 3 月

「グローバル・リーダー育成、スウェーデン研修プログラム」担当
教育学部 准教授 北村友人